

地域の宝活用策考える

東部中 雨の中竹林間伐作業体験

酒田市の東部中学校(赤塚校長)の1年生75人が1日、同市山楯の森林公園「悠々の杜」に隣接する竹林で間伐作業を体験。あいにくの雨降りの中、雨がっぱを着た生徒たちは懸命にノコギリを操った。

悠々の杜は入浴施設「アイアイひらた」周辺の市有地など約8畝。市民有志らで組織する「悠々の杜推進協議会」(会長・矢口明子副市長)が憩い・教育の場として整備している。協議会事務局を務めるNPO法人・ひらた里山の会(佐藤忠智代表理事)は2011年から所有者3人の委託を受け、隣接する竹林を管理

しており、東日本大震災で被災した宮城県松島町の力キ養殖棚用に間伐した竹を贈る活動を2012年から4年間継続。13年度にはこの活動で、県のやまがた公益大賞グランプリを受けた。

同校は「平田・松山地区の課題解決に向けた取り組み」をテーマに掲げ、地域の宝・魅力を生徒たち自ら探し出し、その活用策を考察しよう。市内の酒田DMO、プレステージ・インターナショナル山形BPOパーク、JR東日本庄内統轄センター、ANAあきんど庄内支店、里山の会などの協力で本年度、通年で授

業を展開している。今回の活動も授業の一環。

この日は生徒、赤塚校長はじめ教職員計約80人が参加、同法人スタッフが指導に当たった。佐藤代表理事らからノコギリの使い方を教えてもらった後、生徒たちは広さ約1畝の竹林に入って間伐作業。ずぶ濡れになりながら約40分にわたって取り組んだ。

引き続き生徒たちはアイアイひらたに移動し、平田地域を拠点に活動を行っている市地域おこし協力隊員の内藤小谷子さんによる講話を聴講。2日午前には悠々の杜遊歩道に木質チップを敷設する作業を展開。両日にわたって酒田DMOの荒井朋之理事長兼事務局長の指導で「宝探し」のワークショップにも取り組んだ。



降雨の中、竹林で間伐作業に精を出す東部中の生徒たち＝1日午前